

### 3. 職域のがん検診

- ・胃がんの検査法はX線検査が7割近くを占め、次いで胃内視鏡検査
- ・大腸がんの検査法の最多は便潜血検査で6割の企業が実施。
- ・対象年齢は、肺がん、胃がん、大腸がんとも35歳以上が最も多かった。
- ・乳がんはマンモグラフィを5割が実施。超音波検査も5割近くで増加傾向。
- ・厚労省が定めるがん検診マニュアル以外の運用や検査法が目立った。

#### ◆胃がん検診

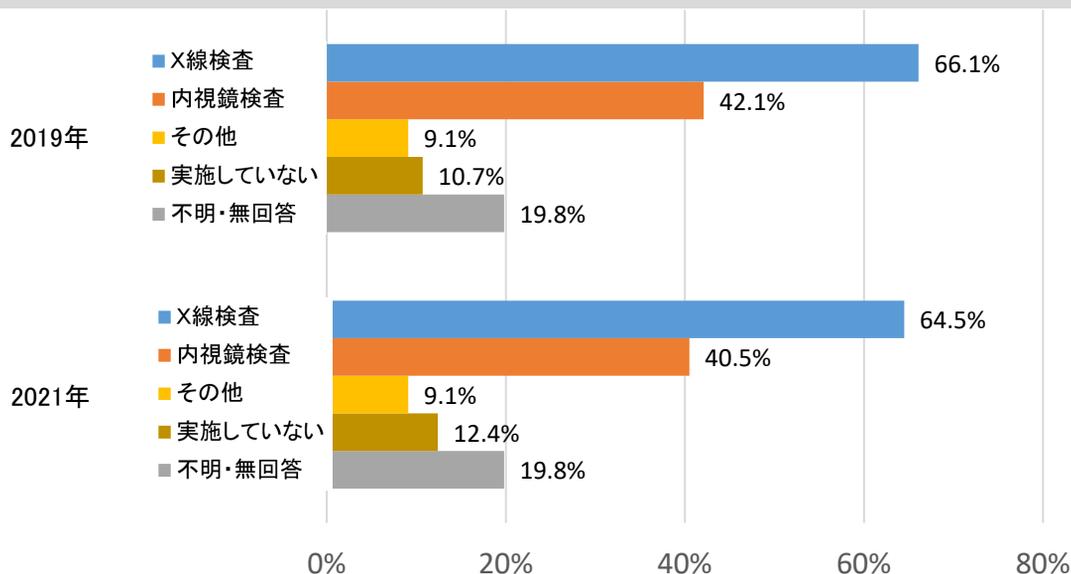
「実施していない」と回答した企業は2019年には121社のうち13社(10.7%)だったのが、2021年は15社(12.4%)に、わずかに増えていました。不明・無回答は兩年とも24社(19.8%)でした。

実施企業が採用している検査法は、X線検査が最も多くを占め2019年80社(66.1%)、2021年78社(64.5%)。次いで内視鏡検査が51社(42.1%)→49社(40.5%)。X線検査と内視鏡検査の両方を併用している企業もありました。胃がんのリスクを血液検査で調べるABCリスク評価や、胃がん患者のほとんどが感染しているピロリ菌の検査も行っている企業もありました。

対象年齢では、35歳以上と回答した企業が最も多く、男性では2019年は49社(58.3%)、2021年は47社(57.3%)。女性も2019年48社(57.1%)、2021年46社(56.1%)でした。30歳以上とする企業もあり男女とも2019年8社(9.5%)、2021年9社(11.0%)でした。さらに、30歳未満の企業もありました。

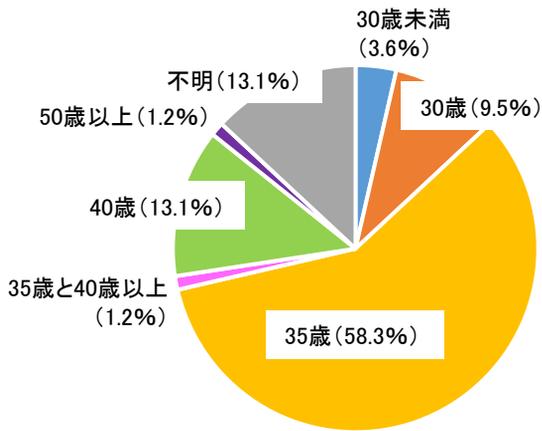
受診率は、胃がん検診を実施している企業の半数以上が「不明」と回答しました。しかも男女とも、2019年より2021年の方が増えていました。男性は50社(59.5%)→55社(67.1%)、女性50社(59.5%)→56社(68.3%)。

胃がん検診はどの方法で実施していましたか。あてはまるものすべてお選びください。(n=121)

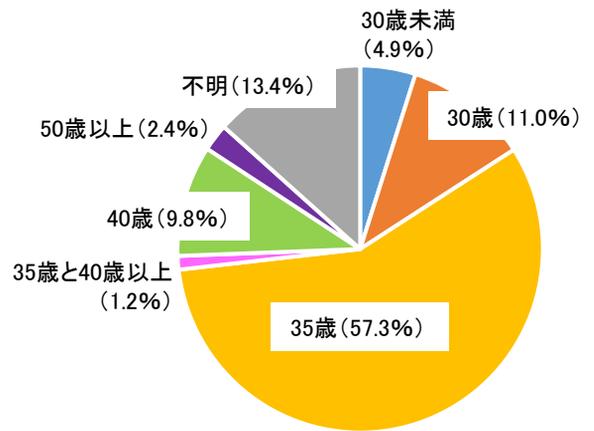


胃がん検診を実施していた方にお伺いします。対象年齢は何才からですか。  
 (2019年:n=84、2021年:n=82)

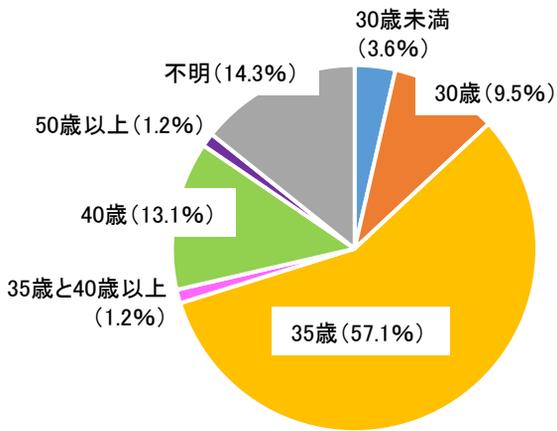
■男性  
 <2019年>



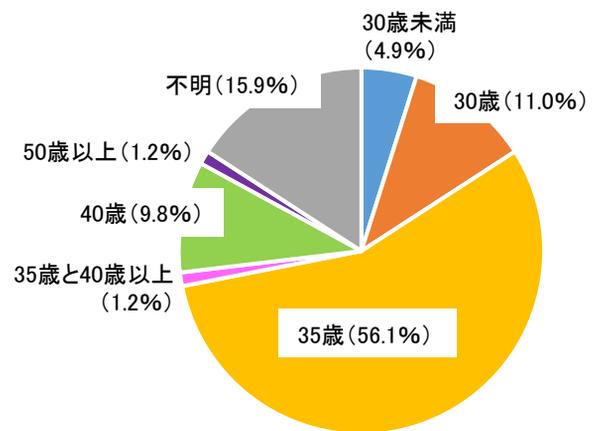
<2021年>



■女性  
 <2019年>

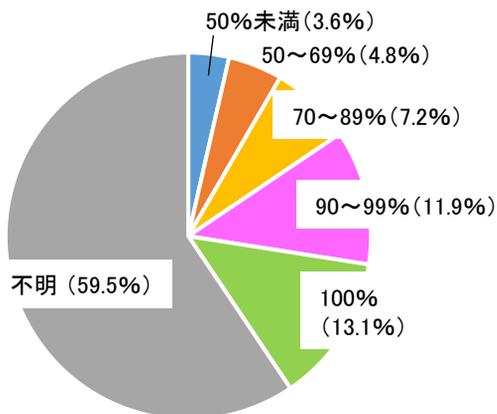


<2021年>

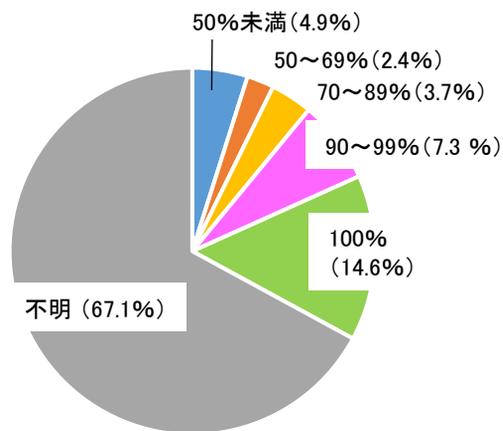


胃がん検診を実施していた方にお伺いします。受診率をお聞かせください。  
 (2019年:n=84、2021年:n=82)

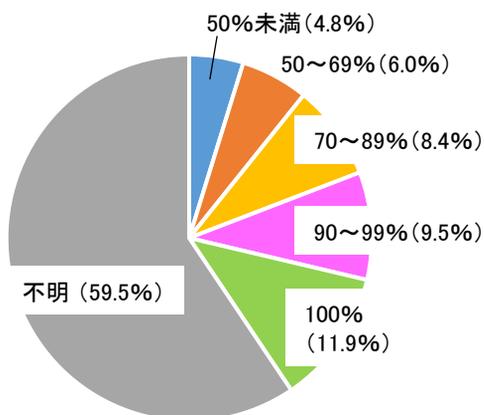
■男性  
 <2019年>



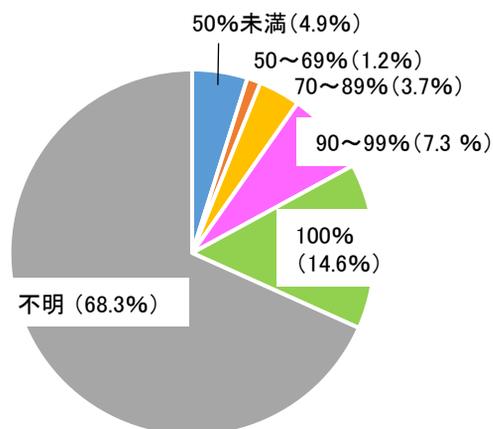
<2021年>



■女性  
 <2019年>



<2021年>



### ◆大腸がん検診

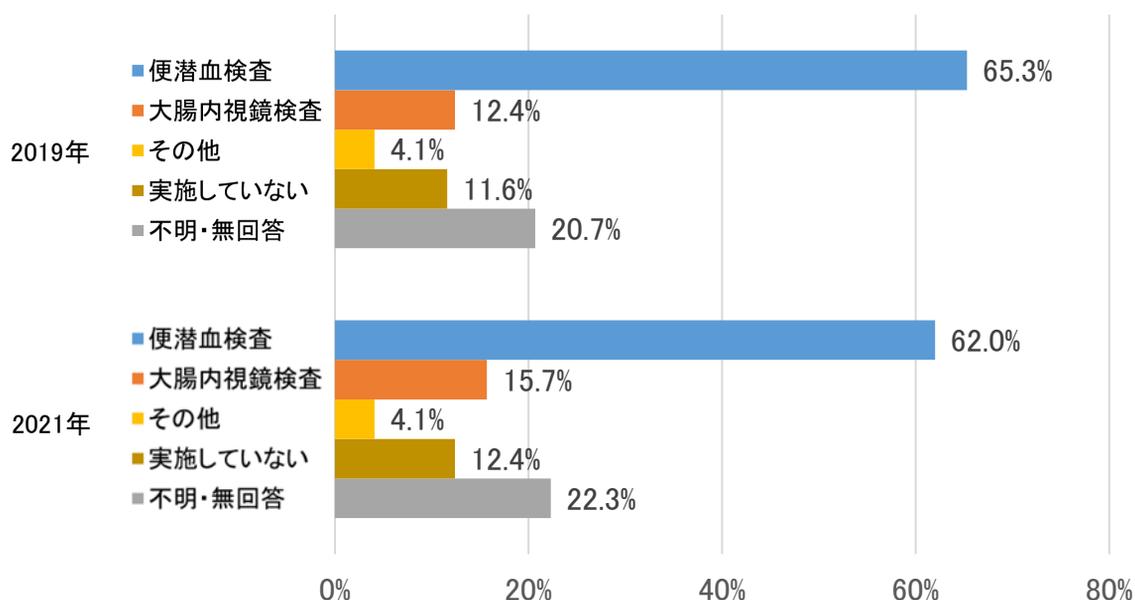
「実施していない」企業が2019年は14社(11.6%)、2021年は15社(12.4%)。胃がんとほぼ同様の傾向でした。不明・無回答もそれぞれ25社(20.7%)、27社(22.3%)ありました。

検査方法では、便潜血検査を行う企業が79社(65.3%)から75社(62.0%)に減っていましたが、大腸内視鏡検査を採用した企業は15社(12.4%)から19社(15.7%)に増えていました。

対象者は、胃がん検診と同様に35歳以上と回答した企業が最も多く、男性で2019年が38社(46.3%)、2021年が37社(46.8%)でした。次いで40歳以上が多く、男性は両年とも13社(15.9%、16.5%)、女性は13社(15.9%)、12社(15.2%)でした。

受診率については、不明と答えた企業が多く、男性が2019年で44社(53.7%)、2021年は51社(64.6%)、女性は45社(54.9%)、52社(65.8%)と、いずれも過半を占めました。

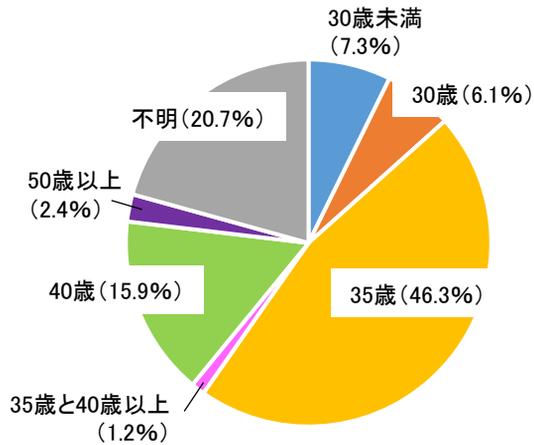
大腸がん検診はどの方法で実施していましたか。あてはまるものすべてお選びください。(n=121)



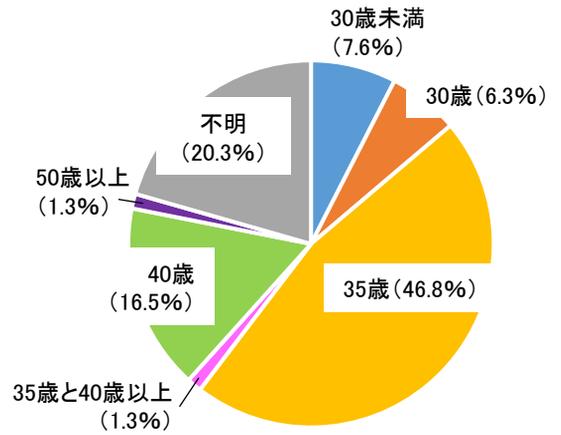
大腸がん検診を実施していた方にお伺いします。対象年齢は何才からですか。  
 (2019年:n=82、2021年:n=79)

■男性

<2019年>

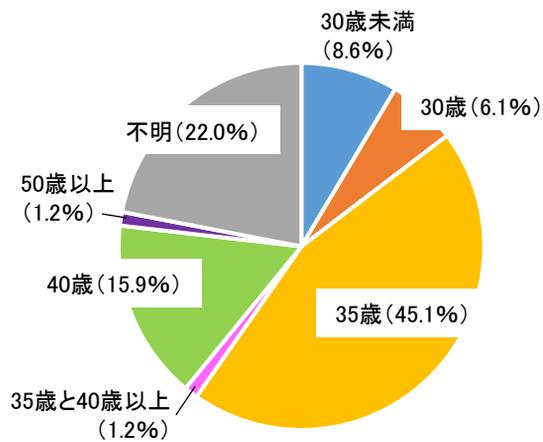


<2021年>

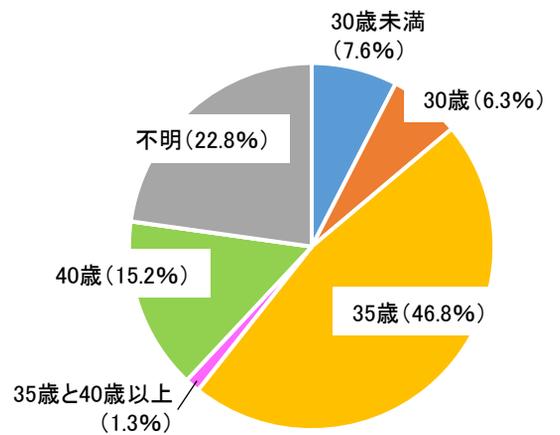


■女性

<2019年>



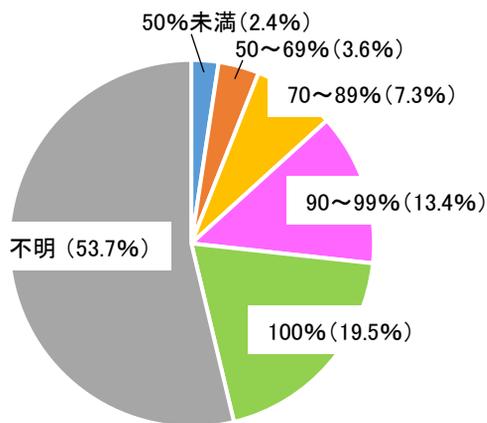
<2021年>



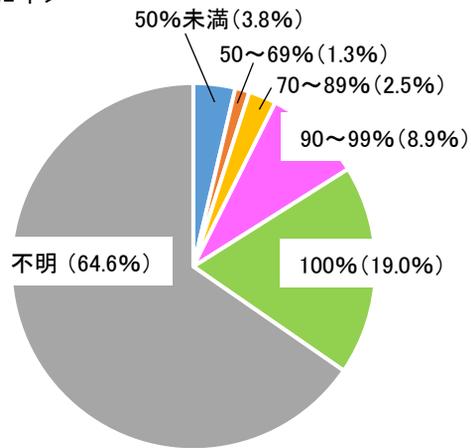
大腸がん検診を実施していた方にお伺いします。受診率をお聞かせください。  
 (2019年:n=82、2021年:n=79)

■男性

<2019年>

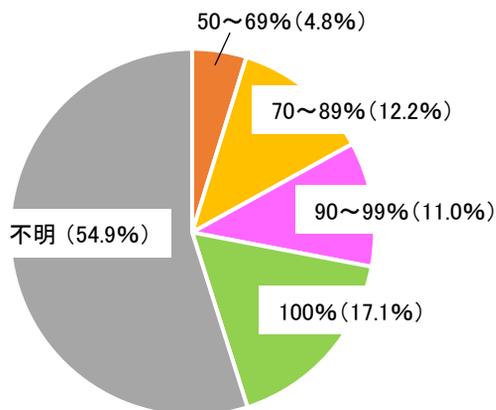


<2021年>

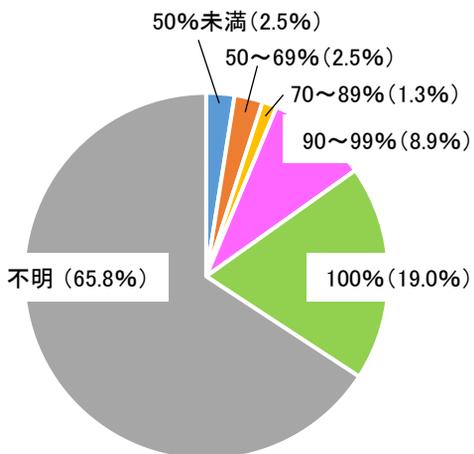


■女性

<2019年>



<2021年>



## ◆肺がん検診

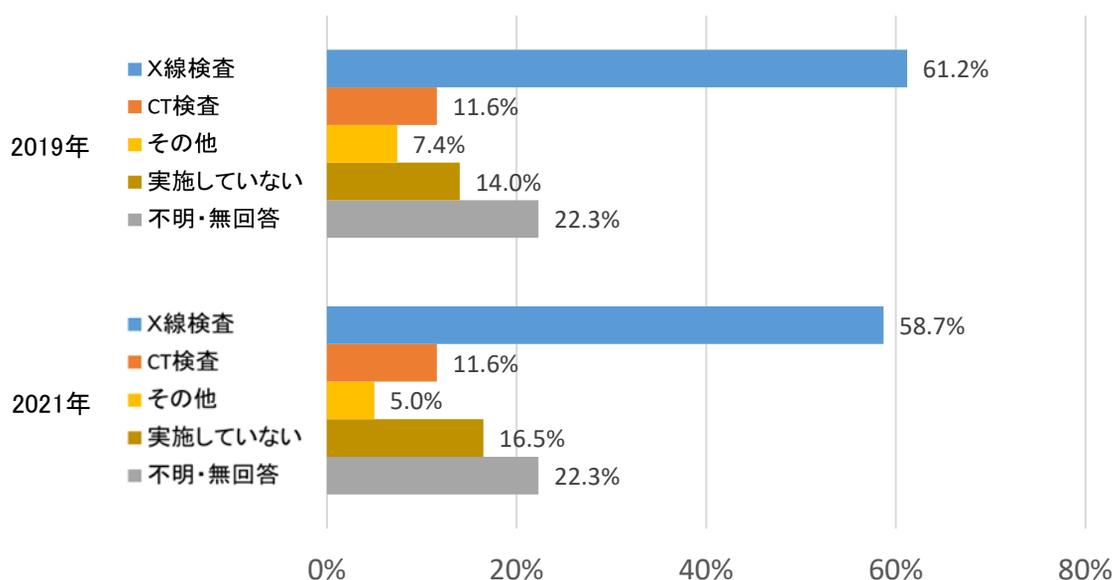
「実施していない」と回答した企業が2019年は17社(14.0%)で、2021年は20社(16.5%)に増えていました。

検診の方法で最も回答が多かったのはX線検査でしたが、2019年の74社(61.2%)から2021年は71社(58.7%)に減っていました。CT検査はともに14社(11.6%)でした。

対象年齢は、胃がんや大腸がん検診と同様に、35歳以上が最も多く男性では2019年が26社(33.8%)で、2021年は24社(32.4%)。女性は25社(32.5%)、24社(32.4%)でした。また20歳未満と回答した企業も目立ち、2019年には男女とも15社(19.5%)でしたが、2021年は男性13社(17.6%)、女性12社(16.2%)とやや減少していました。

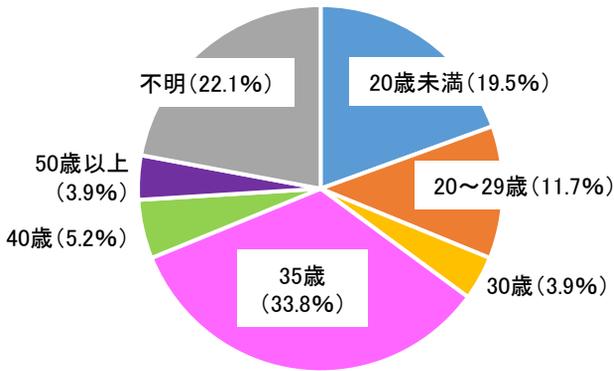
受診率が「不明」と回答した企業が過半数なのは胃がん・大腸がん検診と同様の傾向で、男女とも2019年は男性43社(55.8%)だったのが、2020年は男性48社(64.9%)、女性49社(66.2%)と増えていました。

肺がん検診はどの方法で実施していましたか。あてはまるものすべてお選びください。(n=121)

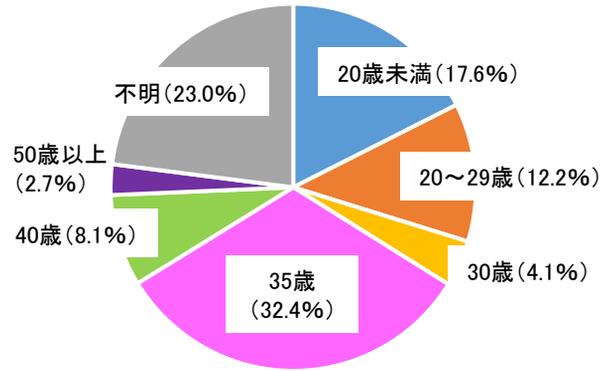


肺がん検診を実施していた方にお伺いします。対象年齢は何才からですか。  
 (2019年:n=77、2021年:n=74)

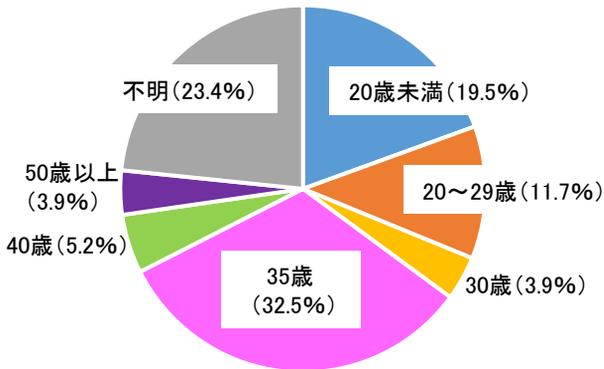
■男性  
 <2019年>



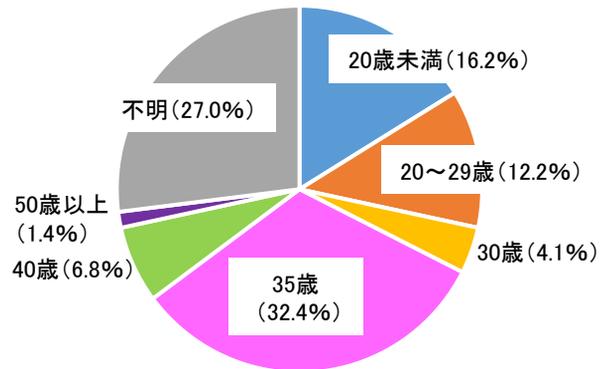
<2021年>



■女性  
 <2019年>

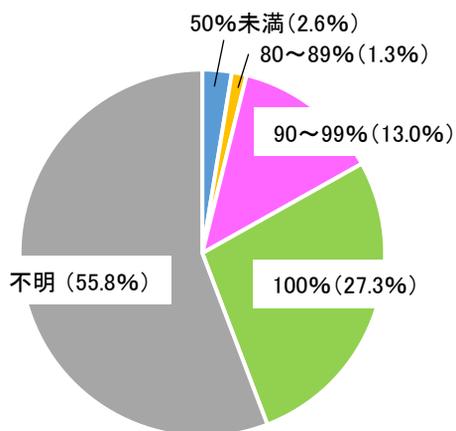


<2021年>

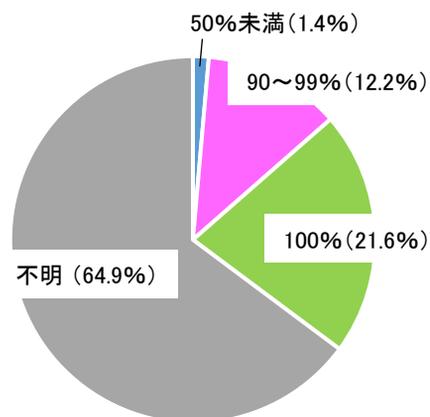


肺がん検診を実施していた方にお伺いします。受診率をお聞かせください。  
 (2019年:n=77、2021年:n=74)

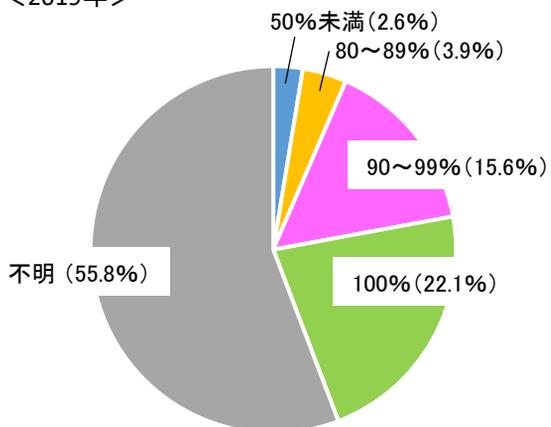
■男性  
 <2019年>



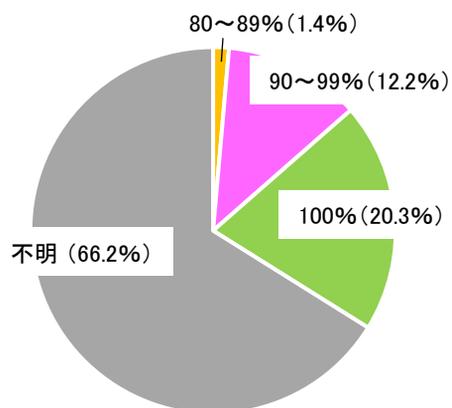
<2021年>



■女性  
 <2019年>



<2021年>



## ◆乳がん検診

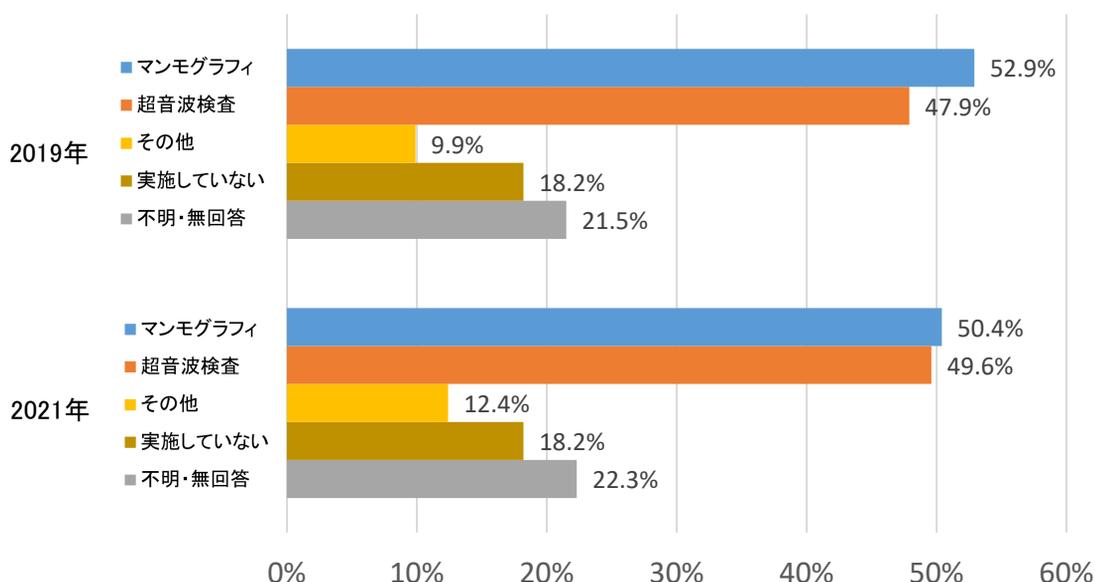
乳がん検診では「実施していない」が2019年、2021年ともに22社（18.2%）でした。

検診の方法は、マンモグラフィが最も多く、2019年の64社（52.9%）から2021年は61社（50.4%）にやや減少していました。一方、超音波検査は58社（47.9%）から60社（49.6%）に増えていました。また視触診も数社にみられました。

対象年齢は40歳以上が2019年で21社（29.2%）、2020年が20社（27.8%）だったが、その他の39社（54.2%）では、女性従業員全員、18歳以上、20歳以上、22歳以上、30歳以上、35歳以上と、さまざまで、かつ、「30代は超音波検査で、40歳以上の奇数年齢はマンモグラフィ、偶数年齢は超音波検査」といったように、検査方法も異なるケースが多く見られました。

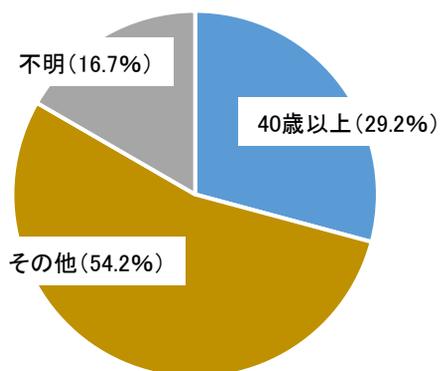
受診率は、不明が最も多く、2019年は46社（63.0%）、2021年は55社（76.4%）でした。

乳がん検診はどの方法で実施していましたか。あてはまるものすべてお選びください。（n=121）

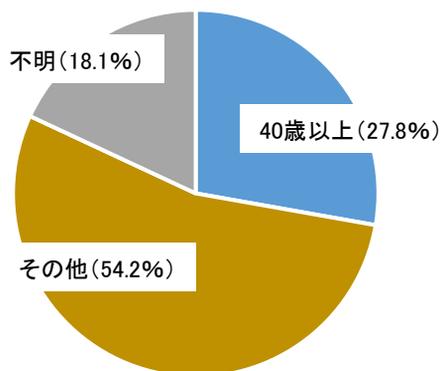


乳がん検診を実施していた方にお伺いします。対象年齢は何才からですか。  
 (2019年・2021年ともに、n=72)

<2019年>

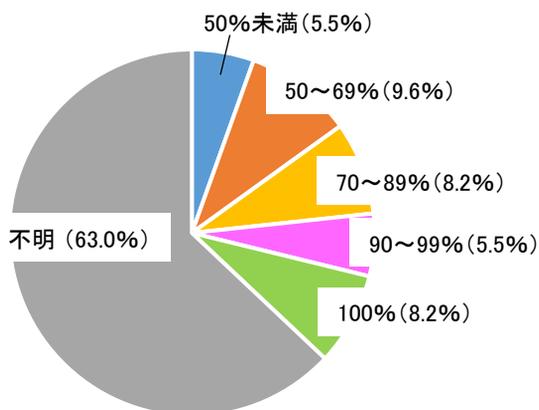


<2021年>

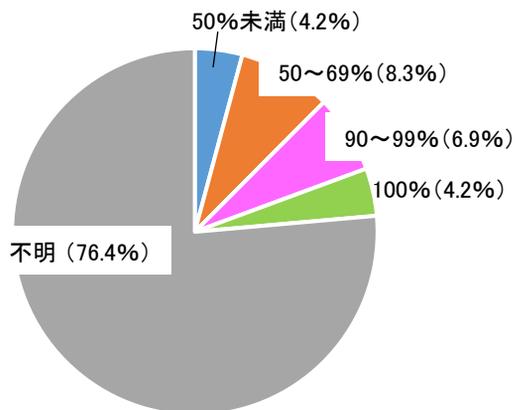


乳がん検診を実施していた方にお伺いします。受診率をお聞かせください。  
 (2019年 n=73、2021年 n=72)

<2019年>



<2021年>



### ◆子宮頸がん検診

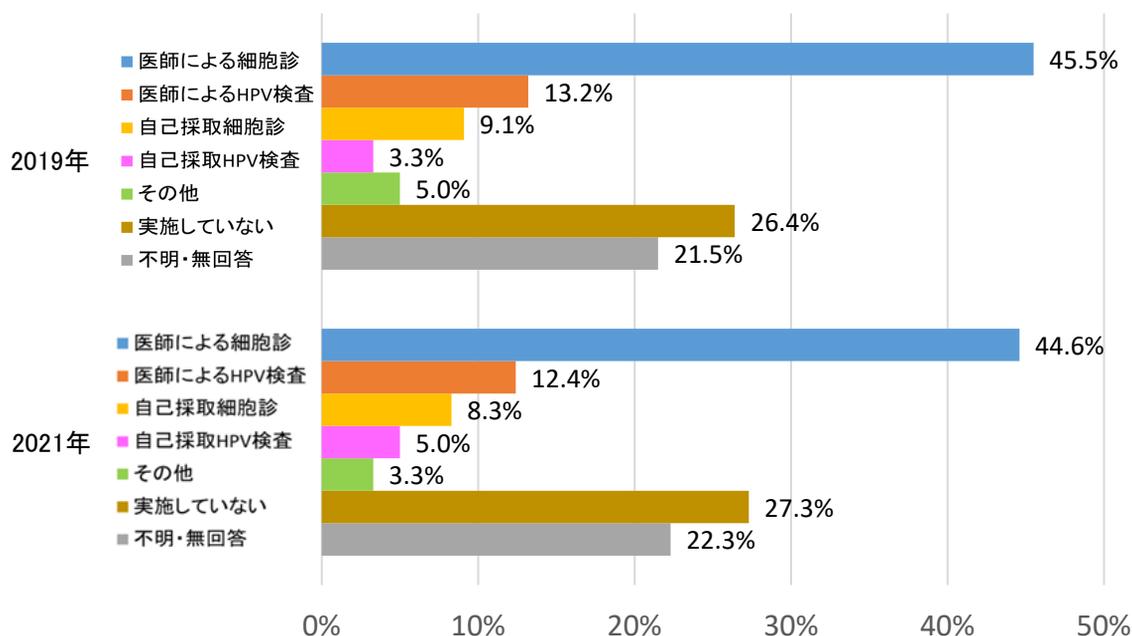
子宮頸がん検診を「実施していない」と回答した企業は2019年で32社(26.4%)、2021年が33社(27.3%)でした。

検診方法として最も多かったのが、医師による細胞診で2019年が55社(45.4%)、2021年は54社(44.6%)、次いで多かったのは、医師によるHPV検査で2019年が16社(13.2%)、2021年は15社(12.4%)でした。自己採取細胞診は11社(9.1%)→10社(8.3%)、自己採取HPV検査は4社(3.3%)→6社(5.0%)となっていました。

対象年齢は、最も多いのが30歳以上の22社(34.9%)→20社(32.8%)。20歳以上は両年とも16社(25.4%、26.2%)でした。「20歳未満から」はともに8社(12.7%、13.1%)でした。

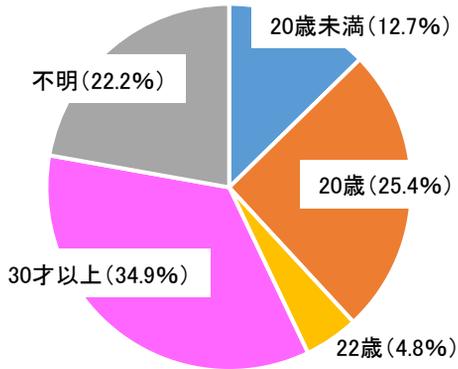
受診率については、不明が最も多く、2019年は40社(63.5%)、2021年は47社(77.0%)でした。

子宮頸がん検診はどの方法で実施していましたか。あてはまるものすべてお選びください。(n=121)

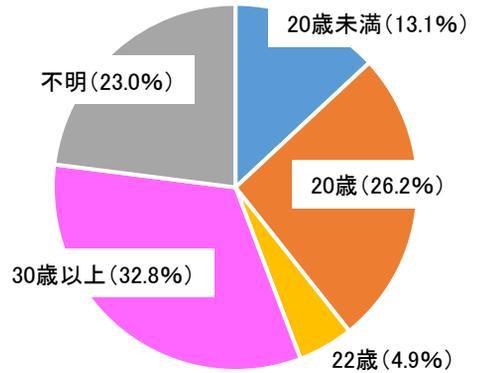


子宮頸がん検診を実施していた方にお伺いします。対象年齢は何才からですか。  
 (2019年:n=63、2021年:n=61)

<2019年>

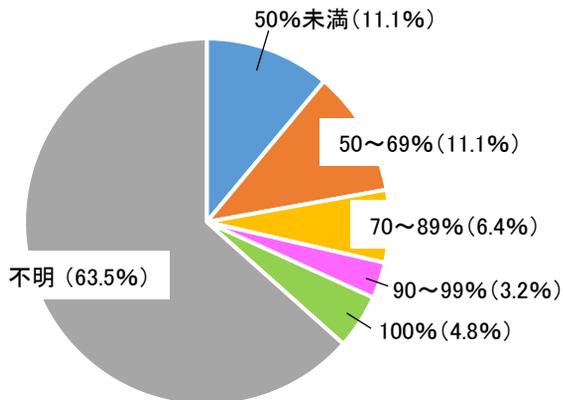


<2021年>

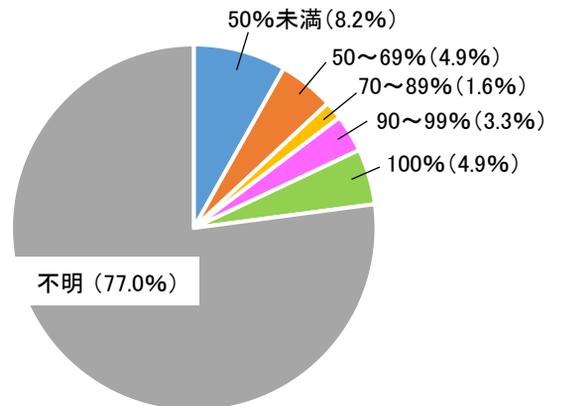


子宮頸がん検診を実施していた方にお伺いします。受診率をお聞かせください。  
 (2019年:n=63、2021年:n=61)

<2019年>



<2021年>



### ◆その他のがん検診

厚生労働省が「職域のがん検診マニュアル」で実施を勧める5つのがん検診(胃、肺、大腸、乳、子宮頸)以外のがん検診について2019年にどのような検査を実施したかを尋ねました。

腹部(超音波検査、35歳と40歳以上)、甲状腺がん(超音波検査、20歳以上)、前立腺がん、肝臓がん・すい臓がん(腫瘍マーカー、35歳以上の希望者)、腹部(CT検査、腫瘍マーカー、対象年齢不明)などの検査が回答されました。

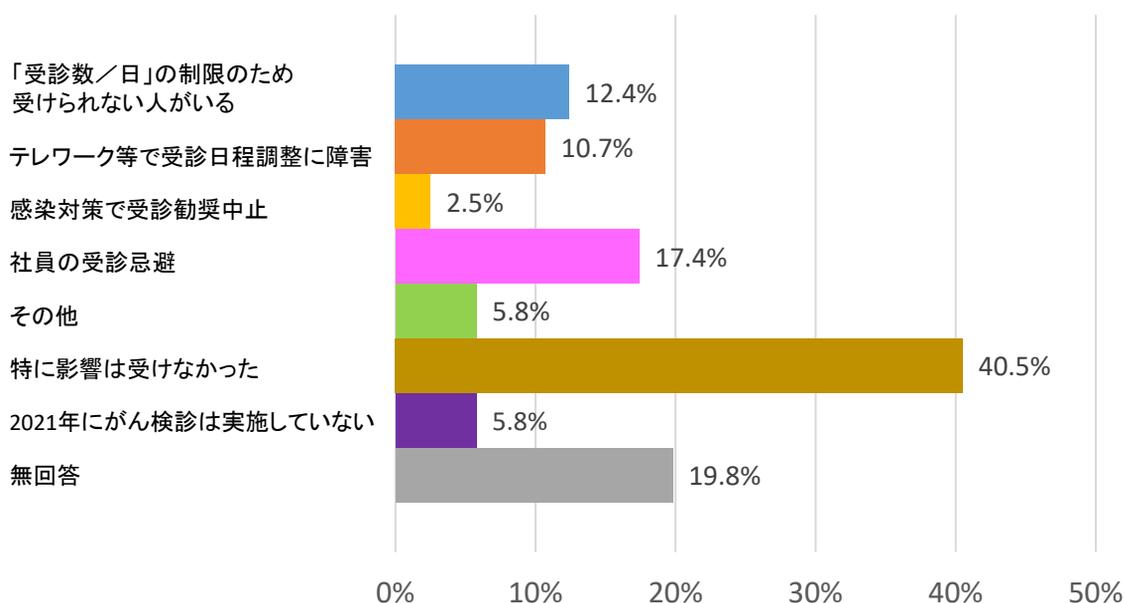
対象がん種や部位は不明だが、遺伝子検査や血中のアミノ酸を検査する方法などを実施していると回答した企業もありました。

### ◆コロナ禍の影響

2021年のコロナ禍でのがん検診への影響(複数回答)については、49社(40.5%)が「特に影響を受けなかった」と回答する一方で、「社員の受診忌避」21社(17.4%)、「受診数/日の制限のため受けられない人がいる」15社(12.4%)、「テレワーク等で受診日程調整に障害」13社(10.7%)、「感染対策で受診勧奨中止」3社(2.5%)となっていました。

「その他」の中には、「胃内視鏡検査の実施医療機関の減少」というコロナ禍の直接的な影響のほか、「非常勤従業員の勤務日数減少に伴う受診率の停滞」など、勤務形態の変更に伴う影響も見られました。

がん検診自体、コロナ禍の影響は受けましたか。あてはまるものすべてお選びください。(n=121)



### ◆2022年以降のがん検診の予定

2022年以降の予定を尋ねたところ、85社(70.2%)は「2021年と同様に実施する予定」と回答しました。一方で、「検討中」などが5社(4.1%)、「検診種類を増加・削減・変更する予定」が4社(3.3%)でした。この9社に、検診種類の変更について尋ねた結果、「対象者を縮小」(胃がん検診)が1社、「全面取りやめ」(乳がん検診で)が1社からそれぞれ回答がありました。また、「その他のがん検診」として線虫検査キットを導入すると回答した企業が1社ありました。

2022年以降、実施するがん検診の予定をお聞かせください。(n=121)

